

特別
^4
8182



為村卿東行錄

貴 八4
8182

< 2012-320 >

東下向の途中一詠

延享三年二月廿七日

有津

為村



こよひかゝる有津の里の梅花むすひもなれぬ病そらせ

梅木里

梅さちりぬ。ほのまふつこいさむらひの梅の木も

南

相坂のつらきく海さつて一帯より里よりあふま

森下

海ありぬ。そのとらむまのちりもたつたむらさきのり

業名

くまの島の海にのりしむるにハ波静なるまじり川舟
さくら村

船頭を元よりしむるに横村を船頭の市屋にちそしむる
佐敷中

しむるにハ船頭をあしむるにハ船頭の中
佐敷中を船頭の市屋にちそしむる

しむるにハ船頭をあしむるにハ船頭の中
佐敷中を船頭の市屋にちそしむる

佐敷中を船頭の市屋にちそしむる

好敷中を船頭の市屋にちそしむる

又佐敷中を船頭の市屋にちそしむる

しむるにハ船頭をあしむるにハ船頭の中

佐敷中を船頭の市屋にちそしむる

好敷中を船頭の市屋にちそしむる

しむるにハ船頭をあしむるにハ船頭の中

又佐敷中を船頭の市屋にちそしむる

しむるにハ船頭をあしむるにハ船頭の中

佐敷中を船頭の市屋にちそしむる

好敷中を船頭の市屋にちそしむる

あつたつておひ出で

まのまのあつたつておひ出で

信見 映雪

信見のつたつておひ出で

田子浦

たつたつておひ出で

箱根

箱根のつたつておひ出で

同帰路之詠

花みつの橋をぬきけ川のほとり

花水よはらの花不見とたんのひひ

あつたつて

つたつておひ出で

大磯

大磯のつたつておひ出で

箱根のつたつておひ出で

あつたつて

あつたつておひ出で

河津にて出たて初見のころは

雲霧の心あたりにあはれしの花をへるの

よきよきとふとふとくく日の光を

よきよきとふとふとくく日の光を

よきよきとふとふとくく日の光を

よきよきとふとふとくく日の光を

よきよきとふとふとくく日の光を

よきよきとふとふとくく日の光を

よきよきとふとふとくく日の光を

よきよきとふとふとくく日の光を

巻末

海にのびる花のよきよきとふとふとくく日の光を

海にのびる花のよきよきとふとふとくく日の光を

海にのびる花のよきよきとふとふとくく日の光を

海にのびる花のよきよきとふとふとくく日の光を

海にのびる花のよきよきとふとふとくく日の光を

海にのびる花のよきよきとふとふとくく日の光を

於江戸四月十九日高座

卯月郭云

東海の時多教をまつらん教をいふまじきく 為村の

時多教の時多を教めて卯月におまじきく 氏房

東海におまじきく卯月の宿よかきぬ山郭云 至信

卯月多教の時多を卯月におまじきく 利啟

卯月多教の時多を卯月におまじきく 政武

卯月多教の時多を卯月におまじきく 真政

卯月多教の時多を卯月におまじきく 信通

卯月多教の時多を卯月におまじきく 品長

卯月多教の時多を卯月におまじきく 証道

卯月多教の時多を卯月におまじきく 俊河

卯月多教の時多を卯月におまじきく 真悦

卯月多教の時多を卯月におまじきく 栄倫

卯月多教の時多を卯月におまじきく 宗永

卯月多教の時多を卯月におまじきく 冬意

卯月多教の時多を卯月におまじきく 章信

卯月多教の時多を卯月におまじきく 義章

卯月多教の時多を卯月におまじきく 忠清

卯月多教の時多を卯月におまじきく 惟賢

事跡よその到ぬ。時名於の卯月いつくゆん 継典
卯花の盛さよそへ時名より時名に初言とそき 正権
卯花の言とそへ時名よりの卯月よそへ時名 春策
卯花よその卯花よそへ時名よりの卯月よそへ時名 柳隠
卯花よその卯花よそへ時名よりの卯月よそへ時名 佳孝
卯花よその卯花よそへ時名よりの卯月よそへ時名 喜寛
卯花よその卯花よそへ時名よりの卯月よそへ時名 安路
卯花よその卯花よそへ時名よりの卯月よそへ時名 豊之
卯花よその卯花よそへ時名よりの卯月よそへ時名 妙房

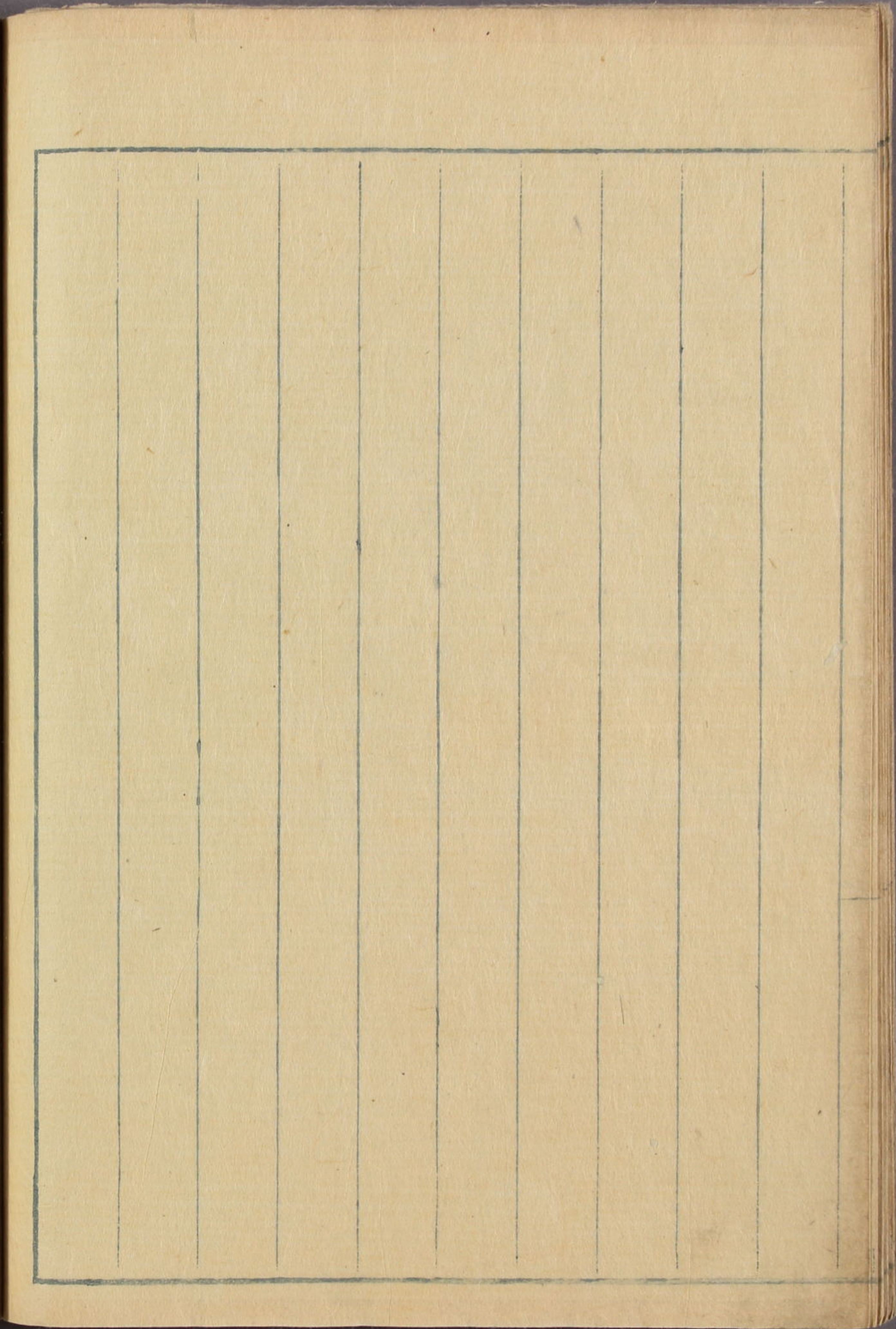
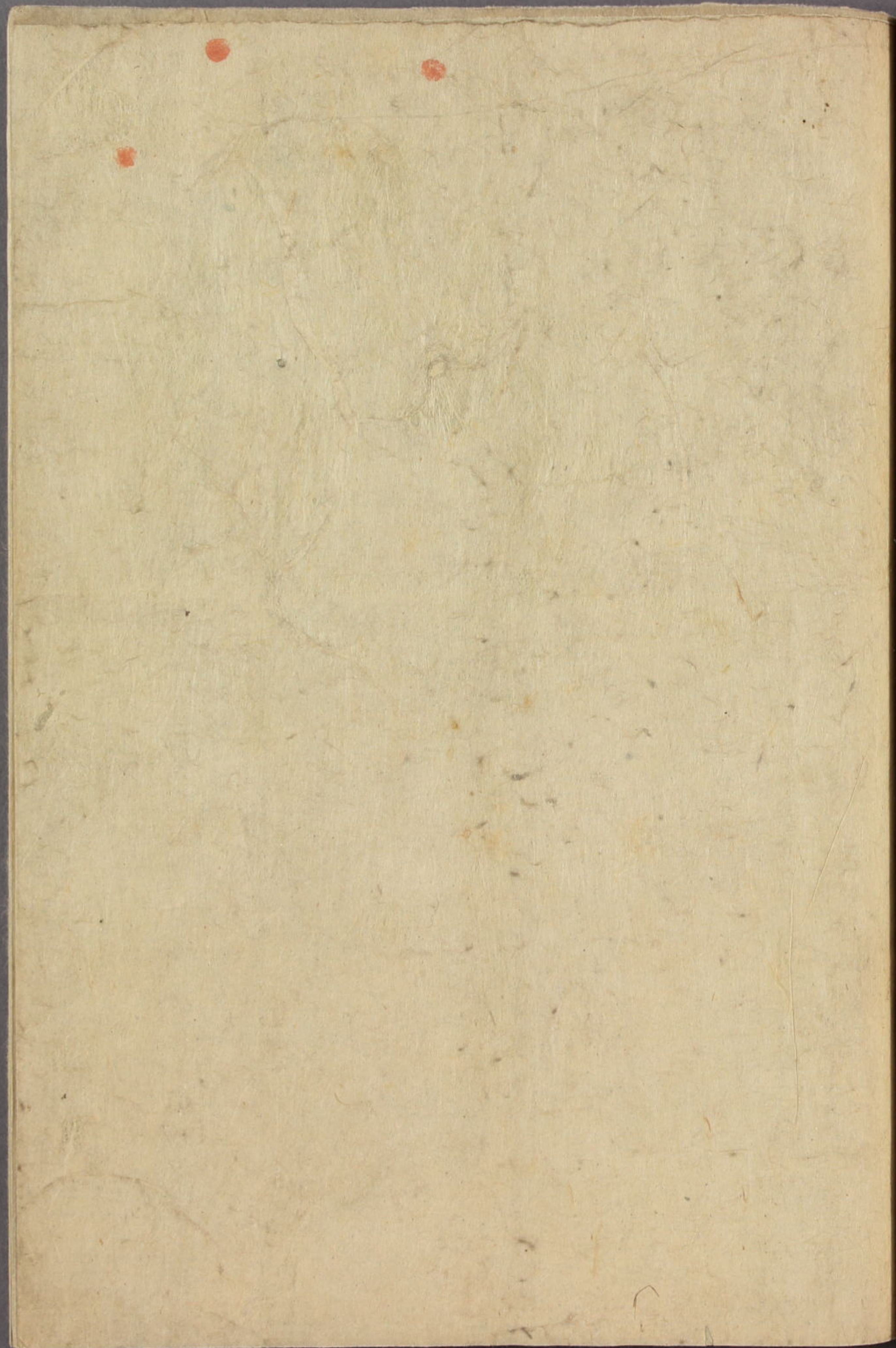
延享三年三月廿二日於 宮中 鳥見 夢洲云 冷泉宰相
写東下回し 御服袴り之日 袴僅 御南庄
袴題十首

躑躅紅 御制衣

浅き林のこけ紅よりまじ紅をたかくくくく
款冬、露 実称

夕れに枝打をひきよふあめの花よそへ時名よそへ時名
水色蛙 雅重

勢多尾城留をうりまよくみよそへ時名よそへ時名
松上藤 為村



為村鄉

洛陽銀音二十三所所順泰所錄

21 西法寺

22 成興寺

23 東寺

24 東寺

25 東寺

26 東寺

27 東寺

28 東寺

29 東寺

30 東寺

31 東寺

32 東寺

33 東寺

34 東寺

35 東寺

36 東寺

37 東寺

38 東寺

39 東寺

40 東寺

41 東寺

42 東寺

43 東寺

44 東寺

ゆんちんとうりむらじきまのほなふらゆんちん
ぬらび天王寺
ゆんちんのまじりたきゆんちんゆんちんゆんちんゆんちんゆんちん
ぬらび清和院
ゆんちんゆんちんゆんちんゆんちんゆんちんゆんちんゆんちん

け一冊者篠田氏義殺糸より持交中
書比一冊

寶曆十三年中夏

宇野利起

